

ESG カオス を超えて

企業の IR・サステナビリティ活動の新たな試練

日本版スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの2度目の改訂を経て、企業のIRおよびサステナビリティ活動・財務政策は新たな試練にさらされている。このような状況にあたって様々な視点から企業にとっての今後の道標がどこにあるかを探る。

10.13

水 13:00 ~ 17:30

開催
場所

ZOOM ウェビナー

事前に ZOOM アプリの
ご準備をお願いいたします。

定員

2000 名

定員に達し次第
受付を終了いたします。

参加
無料



詳細なプログラムは次のページへ >>>

お申込みは
こちら



QRコード(<https://quickmk.smktg.jp/public/application/add/5333>)
を読み取り、申し込みフォームにアクセスの上、必要事項をご記入ください。

お問い合わせは株式会社 QUICK Bizサービス本部まで

TEL 03-6733-9003 (9月27日以降は 050-3529-9163)

MAIL seles.3.c@quick.jp

13:25 ~ 13:40

解題

今考えるべき視点



東京都立大学 特任教授・青山学院大学 名誉教授

北川 哲雄 氏

株式会社野村総合研究所やモルガン銀行（現JPモルガン・アセットマネジメント）等にてリサーチャー、アナリストを経て2005年青山学院大学教授、2019年より現職。最近の論稿として「ESG投資の隆盛化とサステナビリティ・ブルー」（運輸と経済 2021年5月号）および「サステナビリティ・オフィサーの時代」（経営センサー 2019年12月号）がある。また主な社会的活動（現職）として経済産業省「非財務情報の開示指針研究会」座長、金融庁「ソーシャルボンド検討会議」座長等。

13:40 ~ 14:30

講演①

日本におけるコーポレートガバナンスの深化と進化



コニカミノルタ株式会社 取締役 取締役会議長

松崎 正年 氏

1976年小西写真工業株式会社（のちのコニカ株式会社）に入社。コーポレート研究開発部門、技術企画部門を経て、主に情報機器（プリンター、デジタル複合機）の製品開発、商品企画に携わる。コニカとミノルタの経営統合以降は、情報機器事業の制御開発本部長を経て、2005年執行役、2006年取締役 兼務 常務執行役として技術戦略担当を歴任後、2009年に取締役 兼務 代表執行役社長に就任。2014年に退任後、非執行取締役 取締役会議長に就任し、現在に至る。

14:30 ~ 15:00

講演②

企業の財務・IR 戦略のあり方と社外取締役の役割



オリンパス株式会社 独立社外取締役 監査委員会委員長

榎田 恭正 氏

慶應義塾大学経済学部卒業。アステラス製薬（当時藤沢薬品）入社後、営業、財務経理などを経て米国子会社にて経営全般に従事。ノースウェスタン大学にてMBA取得。帰国後、財務部長として経営統合、CFOとして企業価値向上を推進。2017年に同社退職後、デロイトトーマツグループにて独立非執行役員としてガバナンスを含む経営体制強化に貢献。公職として14年まで経済産業省「伊藤レポート」にてプロジェクトメンバー。

15:00 ~ 15:30

講演③

金融機関による ESG 投資・融資の現状と展望



BNPパリバ・アセットマネジメント株式会社 CEO・代表取締役社長

土岐 大介 氏

2019年1月、BNPパリバ・アセットマネジメント株式会社に入社し、CEO・代表取締役社長に就任。それ以前は、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社の代表取締役社長、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社の代表取締役社長、ゴールドマン・サックス証券会社共同支店長、エクイティ部門共同責任者等を歴任するなど、金融業界で30年以上の経験を保有。大学関係では、東北大学総長特別補佐、東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社取締役も経験。一橋大学大学院および筑波大学大学院の客員教授（現職）。

15:30 ~ 16:00

講演④

ESG カオスと企業経営・財務政策の基軸



東京都立大学大学院 経営学研究科 教授

松田 千恵子 氏

東京外国語大学外国語学部卒、仏国立ポンゼ・ショセ国際経営大学院経営学修士、筑波大学大学院企業科学専攻博士課程修了。博士（経営学）。株式会社日本長期信用銀行にて国際審査、海外営業等を担当後、ムーディーズジャパン株式会社格付けアナリストを経て、株式会社コーポレートディレクション、ブーズ・アレン・アンド・ハミルトン株式会社でパートナーを務める。企業経営と資本市場にかかわる実務、研究及び教育に注力している。キリンホールディングス株式会社社外取締役、株式会社IHI社外取締役、キユーピー株式会社アドバイザリーボード委員他、事業会社の社外取締役、公的機関の経営委員等を務める。

16:05 ~ 17:30

パネルディスカッション

企業開示戦略の新たな展開と機関投資家との対話

モデレーター



一般社団法人 日本 IR 協議会 専務理事

佐藤 淑子氏

1985年慶応義塾大学経済学部卒業。同年日本経済新聞社に入社。1993年に日本IR協議会に出向。2003年から同協議会首席研究員。2007年事務局長、2015年から専務理事。企業や投資家との対話を講演や執筆に活かし、IR活動のレベルアップ、ひいては企業価値向上、資本市場の活性化に向けて活動を続けている。著書に『IRの成功戦略』（2015年、日本経済新聞出版）など。公認会計士・監査審査会委員なども務める。

パネラー



アサヒグループホールディングス株式会社 執行役員ヘッド・オブ・コーポレートコミュニケーションズ

石坂 修氏

早稲田大学教育学部卒業。山一證券株式会社入社後、リテール営業、マーケットリスク管理業務などに従事。1998年アサヒビール株式会社入社後、営業企画業務などを経て2008年広報部IR室長。2011年アサヒグループホールディングス株式会社IR部門ゼネラルマネジャー、2020年より現職。在任中のIR活動関連の主な受賞履歴は、日本IR協議会主催の『IR優良企業大賞』（2014年）、日本証券アナリスト協会主催の『ディスクロージャー優良企業選定』食品部門第1位（2020年：16回目）など。



住友商事株式会社 インベスターリレーションズ部長

山根 正裕氏

1991年3月京都大学法学部 卒業。1991年4月1日 住友商事株式会社入社。非鉄化燃経理部 大阪非鉄化燃経理チーム。1997年12月1日主計部 連結経理チーム。2001年10月1日主計部 部長付 決算管理チーム。2010年7月1日欧州住友商事会社 経理部長。2015年7月1日金属総括部 部長付 戦略・業績管理チームリーダー。2017年6月1日金属経理部 部長 兼 住友商事フィナンシャルマネジメント株式会社。2019年4月1日インベスターリレーションズ部長。



三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社 常務執行役員

堀井 浩之氏

早稲田大学理工学部卒業。1988年山一證券入社、リサーチアナリスト活動を開始。1998年住友信託銀行（現三井住友信託銀行）入社、アナリスト活動・リサーチマネジメント業務に従事、2020年4月より現職。リサーチを軸に運用業務に約30年従事、化学業界、エレクトロニクス業界の企業分析に強み。リサーチの経験を活かした「ESG活動の組織的体系化」に注力。ESG情報開示研究会理事、日本サステナブル投資フォーラム理事、日本取締役協会ESG委員会副委員長を務める。

進行



一般社団法人 日本 IR 協議会 特任研究員

近藤 成径氏

1988年に一橋大学商学部卒業後、日系医薬品メーカーに約27年勤務。工場労務、人事、人材研修部門を経て、1998年9月より広報・IR担当者、2007年4月より2015年1月までIR・株式業務責任者を務める。2017年、青山学院大学大学院国際マネジメント研究科修了（経営管理修士）。2020年、同大学院博士後期課程単位取得退学、日本IR協議会入職。共著として、『薬価の経済学』（小黒・菅原編著、2018年、日本経済新聞出版）、『バックキャスト思考とSDGs/ESG投資』（北川編著、2019年、同文館出版）

閉会の辞



東京都立大学大学院 経営学研究科 教授

浅野 敬志氏

慶応義塾大学大学院商学研究科博士後期課程修了。博士（商学）。首都大学東京准教授を経て2017年より現職。日本銀行金融研究所客員研究員、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員を歴任。現在、日本経済学会常任理事、日本経営分析学会常任理事、日本会計研究学会国際交流委員。著書に『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年）などがある。日本公認会計士協会第47回学術賞、日本会計研究学会太田・黒澤賞などを受賞。